

津山市地域公共交通の活性化及び再生に関する協議会（第４回）会議録(要旨)

平成 22 年 1 月 26 日 10:30～11:50

津山総合福祉会館 3 階 中会議室

1 開会（事務局）

2 会長挨拶

3 報告事項

会長別所用により退出、副会長進行

(1) 第 3 回協議会

（事務局） 第 2 回協議会、分科会全体会（9/1）、分科会分会、分科会全体会（12/22）について説明し、了承いただいた。

続いて協議事項に入り、「津山市地域公共交通総合連携計画素案」（原案）について説明。資料については、本編と概要版があり、当日初めて示すものであり、説明にも相当の時間を要するため、一度持ち帰って検討いただき、ご意見等いただいた上で、次回パブリックコメントに付する素案として調整できればと断りをして説明した。

構成について本編目次で説明、内容については、概要版で説明した。

問題点・課題と地域公共交通の基本方針までの詳細については、前回協議済ということで、本編該当箇所の確認をお願いした。

地域の問題、現況公共交通の問題、アンケートから問題点を整理し、津山市の将来の厳しい財政見通しを踏まえて、維持継続ができる効率的な運行体系を構築すること。また、合わせて利用促進のために利便性の向上をはかること、この二つを両立させることが課題と整理しました。このことから、基本方針を①点目が幹線と支線を明確にすることで、効率的運行体系を構築し、維持継続できるものとする。②点目が競合路線・混在運賃の解消を図ること③点目が乗継の工夫、乗継停留所の整備により利用促進を図ること④点目が住民との協働による公共交通の維持、最後⑤点目が P D C A サイクルの確立することとし、以降の地域協議を進めていった。

地域毎の問題点・課題について、阿波地域については、加茂地域と路線の重複・運賃の混在があること、市営バスが非効率であること、J R との連絡が不十分であること、スクールバス車両が充分活用できていないこと、福祉バスがあまり利用されていないこと、加茂地域については、阿波地域と路線の重複・運賃の混在があること、ごんご加茂線と路線バスに路線の重複・運賃の混在があること、加茂ごんごの便数が少ないこと、ほとんど利用の無いバス路線があること、勝北地域については、行方線とごんご勝北線の運賃格差、ごんご勝北線の便数が少ないこと、奥津川地域がカバーできていないこと、久米地域については、ごんご久米線の迂回が大きく乗車時間が長く利用が伸び悩んでいること。ごんご久米線の便数が少ないこと。福祉バスがあまり利用されていないこと、旧津山地域については、路線が重複しわかりにくい体系となっていること、西部の便数が少ないこと、中心部西部がバスでカバーできていないこと、福祉バスがなく周辺がバスでカバーできていないこと。南東部にバスでカバーできていない地域があること、循環ごんごの利用が年々落ちていること、共通の課題として各地域間あるいは全市については、路線の重複・運賃の混在がありわかりにくい体系となっていること、福祉バスの利用に地域格差があること、全路線が赤字であること等を説明した。

これらに対しての今後の整備方針について、阿波地域については、市営バスを廃止し、民間事業者により加茂地域との一体的整備をし、受益者負担の適正化をすること。スクールバスを廃止して路線バスへの混乗とし中学生への別支援をすること。NPO を立ち上げて過疎地有償運送の検討し利便性を向上させること。J R またごんご加茂線への乗継の改善をすること。加茂地域については、阿波地域との一体的整備と同一の運賃体系、倉見地域のデマンド運行の検討、下津川線の整理、ごんご加茂線の短縮折返し運行による増便と地元また中心部東部の結節点整備すること。勝北地域については、行方線とごんご勝北線の競合を回避し、両方を幹線とすること、ごんご勝北の奥津川への延伸、短縮折返し運行による増便、地元また中心部東部の結節点整備。久米地域については、J R の活用、ごんご久米線とチェリーバスを幹線とすること、ごんご久米の迂回の廃止、短縮折返し運行による増便、地元また中心部西部の路線・結節点整

備、福祉バス・ごんごの迂回の廃止をカバーするデマンド乗合方式の検討。旧津山地域については、院庄循環線の充実、中心部小ループバスの検討、周辺部でのデマンド乗合方式の検討、地元サポートを条件とした乗入、支所間ごんごの折り返し運行による旧市内の路線の重複の解消、循環ごんごの見直しと結節点停留所の整備、情報提供の充実。さらに市民の啓発活動、維持管理への協力、分科会等による定期的な見直し・特に PDCA サイクルの確立についてが各地域に共通するものである。大きな変更点としては、①福祉バス等を有料化とすることで受益者負担の適正化を図り、また、地域の実情に応じた運行とする。②支所間ごんごを利用の多い施設で折返しとすることで増便し、また、中心部への乗入をなくすことで重複をなくし分かり易い体系とする。③中心部の高齢者の買物・通院の利便性確保のため低床バスの小循環線を運行する。④路線重複・運賃格差解消のため市営バスを廃止し民間運行とする。の4点となる。

地域間の調整、全市的な調整については、阿波地域と加茂地域の調整については、市営バスを廃止して民間対応、合わせて路線の重複と混在運賃の解消すること。加茂地域と旧津山地域の調整については、乗継拠点の整備と乗継連絡便の整備が必要で実施済。勝北地域と旧津山地域の調整については、乗継拠点の整備と乗継連絡便の整備が必要で実施済。南東地域については、勝間田線の利用状況を見ながら、場合により新循環線を検討すると説明。久米地域と旧津山地域の調整については、乗継拠点の整備については一部済、一部今後調整が必要。乗継連絡便について前向きに検討。合併地域と旧津山地域の調整については、旧津山の周辺地域について、デマンド乗合方式の検討。全市的な課題の調整については、福祉バス・一部阿波バスの有料化、市営バスの廃止。

これを実際の路線別にみると、ごんご加茂・久米が折返しと増便、循環ごんごの路線見直し、院庄循環の増便、・勝北が折返しと増便、阿波バスの運行形態の変更、加茂観光バスの一部路線の廃止・見直し、阿波の過疎地有償、勝北・加茂の福祉バスの有料化、倉見のデマンド、久米福祉バスの形態の変更、新規に中心部の小循環線ということなる。

具体的事業について、H22 年度については 10 月以降阿波の過疎地有償、加茂・勝北の折返し運行による増便、循環ごんごの見直し等を予定。

事後評価については、バス及び鉄道利用者の変化、地域別活動機会の変化、利用者満足度の変化を指標にして、検証方法は、乗降調査、行動調査、アンケート調査を予定。協議会開催経緯について説明した。

説明についての質疑については、バスの乗車密度について説明、大きな車両で運行するのは経費の無駄ということについては現行車両を有効活用また重複路線の解消で対応、デマンド方式の検討については久米また旧津山市の周辺部での検討、待機時間のバス駐車場所の確保については実施計画以降に具体的に検討という答えをさせていた。

今後のスケジュールについては、本日 1/26 の協議会で委員の皆様からのご意見について協議、調整し「津山市地域公共交通総合連携計画素案」として策定、2 月にパブリックコメントを実施し、3 月に津山市議会に報告した上で、3 月末開催の協議会に報告、最終調整を行い、「津山市地域公共交通総合連携計画」として最終的な策定という予定を説明した。

(副会長) 質問、意見等はないか。⇒なし 承認

4 協議事項

(1)「津山市地域公共交通総合連携計画素案」(原案)

ア 事務局修正

イ 委員意見

(事務局) 事務局修正として、その後の追加事項・字句訂正等について説明。

「津山市の公共交通体系の具体的施策イメージ図」について、高齢者の人口分布調査と路線を重ね、今回の見直しで高齢者をカバーしていくイメージの図であるが、この補足として追加をさらに地域毎の示した図面を追加している。

この関連として昨年より岡山大学橋本先生と共同研究を実施している。この成果については、別冊として 3 月の協議会において報告させていただく予定。

次に、参考としてのダイヤ試案だが、旧津山地域の整備方針の中で、地元サポートを前提とした高齢化の進む住宅団地への路線バス乗入の説明したが、この関連で勝北ごんごの奥津川延伸がない日に中央病院の北側にあります高杉団地への乗入を実施し、中央病院で循環ごんごに

連絡をする。この関係で「高杉団地入口」ということで勝北ごんごの時刻表を一部変更している。このことは加茂ごんごにおいても実施する形にしている。

施策のスケジュールについて、旧津山のところに整備方針の中で説明した周辺部でのデマンド乗合運行の検討、重点停留所整備としてイズミバス停を加えている。

協議会等の開催経緯について、3月のところに第1回協議会、4月のところに第1回幹事会を追加。以上が事務局修正。

次に、委員からの意見について、前回委員会でもお願いした事前提出の意見を整理したものである。

まず、商業施設と病院の色分けについて表について実施できていない、また、色分けが明確でないというご指摘については、修正をした。合わせて、地図と表のバランスについてのご指摘があり修正した。

さらに、凡例について小さいというご指摘もあり修正している。

阿波地域の運行体制について、グリーン公社については、収益率10%以下、修理は全て外注ということで効率的ではない、運行管理者の育成ができない、さらに、加茂地域と運賃体系が異なるということで、方針のように分会で整理したものである。

なお、各分会整理については10、11月に2回実施し整理いただいたが、回数・時間とも必ずしも充分というのではなく、特に変更となる点については不安もあるとお聞きしており、もっともなことを考えている。実施に向けての4月以降の調整についてはさらに時間をかけて具体的協議をお願いしたいと考えている。

阿波地域の過疎地有償料金について、これは阿波地域の福祉バスの利用が少ないということで利便性を上げる試みである。あくまで路線バス等の補完ということで利用は最寄のバス停、JR駅までと限定するので高額とはならない予定で分会で確認済み。

加茂地域、久米地域のデマンド乗合方式の料金だが、路線バス、福祉バスの利用が少ないということで利便性を上げる試みであり、あくまで路線バス等の補完ということで利用は最寄のバス停、JR駅までと限定するので高額とはならない予定で分会で確認済み。

バスモニター制が形式的にならないようにということですが、制度的にも検証が求められている。

阿波バスの整理について、地元合意がないのではとのことだが、グリーン公社も加わった住民代表で構成した分会での整理である。具体的な手順等については4月以降に調整の予定としている。

買物・通院が主眼となっているが、観光・環境も重要ではないかということについて、ご意見のとおりだが、観光については毎日の来客把握が困難なため、環境負荷の低減については現行体制では通勤・通学の公共交通への転換は困難ということで、体系整理については特に高齢者・交通弱者の日常生活対応を主眼となっているが、今回の取組により利用が促進されることで環境負荷の低減、観光客等の利便性の向上に繋がっていくと考えている。

今回の見直しで赤字の削減はどれくらいかということだが、有料化による増収、路線重複の解消により乗車密度を上げることによる補助金の削減により生み出される財源を利便性の向上による利用促進のための増便・新規路線等に充当するという考え方である。

補助事業については年度毎の効果が求められるということで、実質的に効果を上げることを目標としているので、毎年度見直しを実施していく。

折り返し運行等実施時期が一緒になっているが、地元協議状況による段階的対応も必要という件について、指摘のとおりで、相互に関連する施策なので同一時期の実施としているが、進捗状況により柔軟な対応を考えている。

事前にいただいた意見については以上であるが、本日もさらにご意見をいただければと思っているのでよろしくお願いしたい。

(副会長) 前回からの修正箇所、みなさんからの意見についての考え方を説明してもらったが、意見等はないか。

(委員) 資料について、素人がみるのには難しくわかりにくい。

極端に言えば、コンパクトシティの考え方で田舎の人は町に出てきて住みなさいというようになっていないか。利用は無いが、需要が無いということではない。そのあたりはどう考えているのか。

なんでも行政に求めてはいけない。連合町内会でもそういうことを徹底してきている。

(事務局) 資料が見づらいのはご指摘のとおり。前回の会議でもわかりやすいように概要版を示したように、

パブリックコメントにおいても概要版をつける予定としている。都市計画マスタープランで示したように津山市として合併したので各拠点の連携はとっていくというのが基本的な考え方である。こんご加茂等は便数を増やしていきたいし、福祉バスについては、もっと使っていただきたいという観点でバス停まで出てもらうのではなく、家まで行くというような形を考えている。

(委 員) 我々がどこでかかわっていけるかということ等、話をしていかなければならない。

(副会長) 市民がわかりやすい形にしなければならない。

(委 員) 都会の人から田舎に住みたいとなるようにしていかなければならない。

(委 員) 案について、読んでみると乗る利用者の意見が入っていないのではないかなと思った。そこについては、私も含めて反省をしている。現場からの声や、200 円ぐらいの運賃なら払えるが、それ以上は難しい、どうなっているのかという声もあった。チェックのところをきっちりとやっていかないと住んでいる人が反対してやっていけなくなるのではないかなと思った。

グリーン公社も 900 万円の赤字ということだが、阿波村のときには他で補填してやっていた。そうしてかつてはうまくやっていたのが、うまくいかなくなっているのに民間に任せるとうまくいくというのは違うのではないか。現場の声を聞くのが、将来的にうまくいく。

分科会が説明会になってしまっていた。どういうふうにしたらいいかという話し合いまでにはならなかった。直していくべきではないか。

(事務局) グリーン公社の運行で収益が 10%しかない状況である。分会に公社常務に出席してもらったが、運行管理者の対応ができないということであった。しかし実際に 4 月になって、やっていくときには他の選択肢もある。今後、詰めていく中で他の方向性が出てくれば違ってくる可能性もある。

利用者が分会に入っていなかったのはよくなかったと思っている。分会の人選については、地元と相談して決めたメンバーであり、他の地域では利用者も入っている状況がある。アンケートの結果等もある程度は反映できた内容になっていると思っている。

(委 員) 実際に利用する人の意見を聞くということで進めてきたが、かなり難しかった。分会メンバーについては、地元で選んでいただいたが、実際に乗っている人があまりにも少なくて地元の名士の方が出てくることが多かった。また、利用者とはいえ高齢者に会議に出て発言しろというのも無理がある。

基本的なところでは、アンケートでどこに行きたいかを聞いてこれを元にしている。大きな骨格としてはこの素案は違っていないと思う。しかし、使い勝手のところは修正をしながら最終的には 3 年後ぐらいに形になればと思っている。グリーン公社については、コメントする立場にはない。

この案が決して完成形ではない。税収が少ない中でどうしていくかというときに、どうしてもある程度人が集まっているところを走らざるを得ないと思っている。まだ直すところはあるのかなと思うが、これからどう肉付けしていくかということが大事になってくる。実際にいつ乗りたいか、詳細な調査をする必要があると思う。

時刻表を作るという大切な作業が残っている。みんなの意見が反映される場を作ってほしい。

案に示している図等で見にくくなっているものがあるのでそのあたりはきちんとしてほしい。

(委 員) グリーン公社の件についてだが、他の民間業者では人件費を押さえ、独自でバスを保有し、低い年収の中頑張っている。

こんご勝北について、奥津川発や高杉団地まで行くときのダイヤ内容について、また支所間こんごと循環こんごバスの乗継料金、接続はどうなるのか。ずっと待つようなことはないのか。

(事務局) まだ確定ではないが、こんご勝北については奥津川発を高杉団地に入れるのは時間的に難しいと考えている。バス間の連絡については、不便をかけないように目的地としている人が多い中央病院とイオンとしている。乗継の料金負担については、少しは安くなるようなことを考えている。

(委 員) 中央病院については、バス停の場所が狭く一般車両も乗降のため入ってきている。また、中央病院を降りたところの路面が荒れていてバスだとかなり揺れるので、道路整備を考えてほしい。

(事務局) 現場を確認して対応していきたい。

(委 員) 利用者から利用したいという時間についてだが、タクシーでいうと早朝は動かない。9~11 時ぐらいが出やすいと思うのでここにダイヤを組んでいけばよいと思う。また、17 時頃のスーパーのサービス割引の時間に動く人も多い。

(副会長) 他に意見はないか。

無いようであれば、パブリックコメントにかけるとして承認いただけるか。⇒承認

(2) 今後のスケジュール

- (事務局) いただいた意見については、可能なかぎり修正してパブリックコメントにかけていきたい。
その結果を3月議会にかけて、3月30日予定の次回協議会で最終的な調整をしたのちに計画としていきたい。
- (副会長) ご意見、質問等はないか。⇒無し。スケジュールどおりに進める。

5 その他

- (副会長) その他に意見があればおねがいします。
- (委員) 今の状態を守るだけでなく、里山等は人がそこに住むことで維持されているのでそこを守るようにしてほしい。
- (委員) 昨日、近畿運輸局で研修会があり、そこに参加してきた。兵庫県の町で、運賃を最高1,150円から200円にしたところがあるが、料金を下げたが赤字幅が縮まってきている。料金が問題ではなくて、PR活動をして乗る人の数をどうやって増やすかということが大切である。
- 移動手段としてバスが選択肢に入っていない人がほとんどである。こうした人にバスをPRできないか。もう少し乗ってもらえるようになれば色々な手がある。できるだけうまく乗ってもらう方法を考えてもらいたい。お金をかけるということではなくて、色々な方法で、たとえば子どものときからバスに乗るとかをやってほしい。
- 10月に最初に取り組むところで、そのようなPRをやってほしい。
- (副会長) 他に意見はないか。⇒なし。
- (事務局) 委員の指摘については、大事なところであり、今回すぐとはならないが考えていきたい。PR活動がうまくいっていない例が多いので、その点を頑張ってやっていきたい。

6 閉会